

令和3年度 通常総会議事資料

<2021年6月13日>

<議 事>

- | | | |
|---|------|--|
| 1 | 日 時 | 2021年6月13日(日) 14:00~17:00 受付開始 13:30 |
| 2 | 会 場 | オンライン開催 |
| 3 | 付議事項 | 第一号議案 令和2年度事業報告並びに決算及び監査報告について
第二号議案 令和3年度事業計画並びに予算について
第三号議案 令和3年度役員を選任について |

特定非営利活動法人
日本ファシリテーション協会

令和2年度事業報告

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、FAJのコミュニティ運営にも多大な影響を及ぼしました。これまで対面が当たり前だった活動の大部分は、双方向型オンラインコミュニケーション(以下、オンライン)に変わり、一部実施できた対面の活動も感染対策を講じての実施となりました。

各事業では、今までの知見を基に全国の会員が対面やオンラインの活動を工夫しながら継続し、新たなファシリテーションの可能性の創造にもつながりました。コロナ禍により社会が形を変えていく中で、私たちFAJの存在意義や私たちファシリテーターは何ができるのかを問われた一年となりました。

調査・研究事業: 定例会、例会等において、これまでの知見をオンライン上で展開し、地理的・時間的制約を超えて探究の場を広げました。引き続き、FAJ内外のファシリテーターとの研鑽の場づくりを行いました。

教育・普及事業: コロナ禍によって、従来の対面型公開セミナー開催が困難な状況のなか、安心・安全に配慮したセミナーの開発・実施に取り組みました。

支援・助言事業: 支援を必要とする現場に赴き、対面で実施していた支援がコロナ禍で困難になりました。そうした状況のなかでもオンラインを活用した支援を実施しました。

交流・親睦事業: コロナ禍においても、地域イベントのオンライン開催、在住外国人の支援、海外のファシリテーションの知見提供等を通じて、国内各地域や国境・文化を越えた交流を深めました。

広報・コミュニケーション活動: 外部への発信強化に着手し、将来の会員や支援先、協働パートナーを見据えた広報を展開しました。また、会員相互の知見や実践事例の共有を通じて内部コミュニケーションの充実を図りました。

ミッションおよび組織運営に関わる活動: オンラインでのコミュニケーションを促進するため対話と議論を重ねながら、持続可能な組織運営を考えることで、あり方とやり方を検討しました。

以下、事業計画に沿って、事業の概要を報告します(括弧内は担当組織を表します)。

1 ファシリテーション技術の確立や新しい技術の開発を目指す調査・研究事業

1) 実践力の相互研鑽の場づくりの推進(理事会、各支部運営委員会、プロジェクト)

- 各支部・サロンでの活動がオンライン中心となり、地理的な制約を越えて参加者が集いました。定例会・例会は、これまでの知見を活かして開催され、地域を越えた企画が数多く生まれました。一方、対面での開催を模索し実施しました。
- プロジェクト活動・サロンの新規設立はありませんでした。
- 全国イベント「ファシリテーションサミット」を計画しましたが、コロナ禍で延期しました。

2) ファシリテーションの本質を研究(理事会、イベント実行委員会)

- ザ・ワールド・カフェをテーマとした「The World Cafe25周年イベント」(以下、TWC25)を、オンラインで実施しました。FAJの枠を越えて広く募った個人・団体が、立場・環境・地域・国境など、さまざまな壁を乗り越えるための対話の場を20回以上開催しました。

2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業

1) 従来の公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)

- コロナ禍でも開催可能なプログラム(ファシリテーション基礎講座 コロナ感染症対策版)の開発や運営マニュアルの整備を行い、7月以降、6会場9クラス開催しました。またアフターミーティングを2回開催しました。

2) 公開セミナーの新たな展開の検討(理事会、公開セミナー委員会)

- ファシリテーション実践講座(仮)のコンテンツを完成させ、担当講師についても選定を終え、コロナ収束後いつでも事業化できる状態にしました。
- コロナ禍で特にニーズが強まったファシリテーション基礎講座(オンライン版)の開発を行い、パイロットを1回実施して事業化の準備を進めました。

3 各種団体におけるファシリテーションの活用をサポートする支援・助言事業

1) 社会からの多様な要請に対する支援の充実(ファシリテーションサポート委員会)

- 今年度は外部からの問い合わせは34件、支援の実施数は10件に留まりました。オンラインツールを活用したりモット形式で実施した事例もできました。案件毎にニーズに合ったチームを作り、支援にあたりました。
- 注力を検討していた教育分野では、3件支援を行いました。過去の知見を整理するには至らなかったものの、支援リソースを充実させつつ、学生・生徒向けの授業のみならず教職員向けにもファシリテーション研修を行いました。

2) 災害復興・防災・減災に関するファシリテーションを通じた支援(災害復興委員会)

- 前年度から継続した案件と、今年度被災した福岡県の情報共有会議などをオンラインで支援しました。
- 防災では内閣府人材育成事業での支援、各所からの依頼に応えオンライン記録支援についての学びの場づくりなどに取り組みました。なお、復興支援のプロセス等の調査についてはコロナ禍により実施することができませんでした。

3) 支援活動への理解の促進(ファシリテーションサポート委員会、災害復興委員会)

- ファシリテーションサポート委員会は、FAJ内で支援活動報告会を実施しました。FAJ外への発信については課題として残りました。
- 災害復興委員会は、FAJ内で災害復興についての対話会を実施しました。FAJ内外に向けて支援活動を報告書やSNSで発信しました。

4 ファシリテーターや関連団体間の親睦を図る交流・親睦事業

1) 地域イベントを開催(各支部運営委員会、地域イベント実行委員会)

- 北海道支部及び中部支部において地域イベントをオンラインで開催し、FAJ内外の交流を促進できました。支部によっては、コロナ禍の影響によりイベント開催を見送りました。

2) 国境や文化・言語を越えてつなげる活動強化(グローバルファシリテーション推進委員会)

- IAFストックホルム大会が中止となり会員派遣はできませんでしたが、オンラインによる海外ファシリテーターとの交流を行いました。
- 多文化共生をテーマに在住外国人支援のための活動を行いました。また、各支部と協力して、海外のファシリテーションの知見を提供しました。

3) 他団体との連携強化(理事会、各支部運営委員会)

- 前述のTWC25イベントをIAFと共催し、相互の交流を深めました。また、ワールド・カフェ主催支援などを通し、他のNPO等と協働しました。
- 外部団体のイベントに、運営面やファシリテーターの役割として協力するなどの取り組みを行いました。

5 広報・コミュニケーション活動

1) 広報戦略の立案と発信の強化(理事会、広報委員会)

- FAJ公式ホームページのアクセス解析の結果、使いやすさを検討し、ページ構成の改良及び継続的なメンテナンスを開始しました。
- 対外的な発信を強化するための手段を検討し、新規加入促進に向けたホームページの見直しや、新しいパンフレットの作成に着手しました。

2) FAJ活動を内外に発信する広報活動の実施(広報委員会)

- ニュースレターを3回発行し、会員相互で知見を共有することで積極的な活動を促しました。また、ブログ記事を積極的に更新しました。
- コロナ禍で活動の制約がある中、オンラインでのイベントや場づくりへの取り組みをスピード感を持ってFAJ内外に発信・紹介しました。
- 災害復興支援の取り組みをはじめ、FAJ 内外で社会課題に取り組むファシリテーターに関するトピックを取り上げ、ニュースレター等で、それぞれの現場での実践事例を紹介しました。

6 ミッションおよび組織運営に関わる活動

1) 組織のあり方と運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)

組織がおかれている現状を話し合い、ビジョン3.0を確認し、新たなビジョンの策定に向けて検討を開始しました。外部に向けた活動はできませんでしたが、FAJ内部での協働と共創を促進する仕組みについての案を作成しました。

- コロナ禍に活動を継続するために、想定される感染リスク対策を組織として講じました。
- 持続可能な組織運営のために、運営の実態に関するヒアリングを実施し、外注可能な事務局機能について検討し明確にしました。新たな資金調達に関する検討は進みませんでした。
- 各拠点間及び理事会のコミュニケーションを円滑にし、各拠点の運営をよりよくするための組織コミュニケーションの場として「しゃべり場」を新設し、概ね月1回開催しました。
- オンライン上のコミュニケーション活性化のため、会員限定の交流サイトを試行導入し、検証を始めました。

2) 拠点運営のサポートの充実(システム管理委員会)

- FAJ公式ホームページへのアクセスを維持するために、設置環境バージョンアップに伴う対応を実施しました。
- G-suite運用管理、Webサイト問合せ対応など通して拠点運営のサポートを実施しました。
- オンラインTV会議システムの運用および利用状況を鑑みたアカウント削減を実施しました。

3) 各種制度改正への対応(理事会、事務局)

- 制度改正への対応はありませんでした。

I 特定非営利活動に係る事業

1. 調査・研究事業 (各支部から総括コメントも掲載)

事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	受益対象者数		
				会員	一般	
北海道支部 定例会	4月4日	オンライン	5	25	0	
	5月9日	オンライン	2	28	3	
	6月6日	オンライン	2	29	1	
	7月4日	オンライン	2	29	1	
	8月1日	オンライン	2	24	1	
	9月5日	オンライン	2	27	1	
	10月3日	北海道札幌市 生涯学習センター ちえりあ 2階 大研修室	2	20	2	
	11月7日	オンライン	2	30	1	
	12月5日	オンライン	2	14	1	
	1月9日	北海道札幌市 生涯学習センター ちえりあ 2階 大研修室	3	10	1	
	3月6日	オンライン	7	9	1	
受益対象者延べ人数					258	
2020年は、オンライン定例会が主となり参加者が増えた。その中でも感染防止対策を行いリアル定例会を2回開催し、リアルの楽しさを改めて体感することができた。支部イベントでは、企画から北海道外の会員が参加し、新たなFAJの楽しさが広がった。						
東北支部 定例会	4月25日	オンライン	3	29	0	
	5月9日	オンライン(関西支部共催)	関西支部定例会に記載			
	6月13日	オンライン	5	18	0	
	7月4日	オンライン	7	31	0	
	8月1日	オンライン	4	12	0	
	9月6日	オンライン	5	22	1	
	10月3日	オンライン	5	26	0	
	11月14日	オンライン	4	10	9	
	12月5日	オンライン	3	5	0	
	1月9日	オンライン	7	17	5	
	2月6日	オンライン	3	11	0	
	3月6日	オンライン	11	5	2	
	受益対象者延べ人数					203
	オンラインの特性を活かし他支部や他団体との共催が行われた。特にコロナ禍における災害ボランティアがテーマの際は地域性も活かされ且つ新たな参加者が全体の半数を占める特徴ある定例会であった。					
東京支部 定例会	4月25日	オンライン	20	72	3	
	5月23日	オンライン	16	93	2	
	6月27日	オンライン	22	65	1	
	7月25日	オンライン	23	83	2	
	8月2日	オンライン	6	98	19	
	8月22日・9月5日	オンライン	9	33	8	
	9月26日	東京都北区 北とぴあ 第二研修室及び、オンライン	15	59	5	
	10月24日	オンライン	23	54	3	
	11月28日	オンライン	9	68	10	
	11月29日	オンライン	9	30	0	
	12月26日	オンライン	11	14	1	
	1月23日	東京都葛飾区 かつしかシンフォニーヒルズ レンボー及び、オンライン	17	64	7	
	2月27日	オンライン	7	79	8	
	2月28日	オンライン	6	2	5	
	3月27日	オンライン	20	98	58	
	受益対象者延べ人数					1,044
	先端事例を持つ話題提供者を招き、多くの参加者による学びを得る定例会と、ファシリテーションに関するチャレンジを促す定例会を区分けして開催。リアル開催で定員制限などがあるも、昨年度以上の参加者であった。					
中部支部 定例会	4月18日	オンライン	9	25	0	
	5月10日	オンライン	4	45	4	
	5月16日	オンライン	6	76	18	
	6月7日	オンライン	10	73	0	
	6月20日	オンライン	7	82	0	
	7月18日	オンライン	10	33	1	
	8月22日	オンライン	8	55	9	
	9月19日	オンライン	9	50	1	
	10月17日	愛知県名古屋市 名古屋市総合社会福祉会館及び、オンライン	10	25	3	
	11月21日	オンライン	13	16	0	
	12月19日	オンライン	7	32	1	
	1月16日	オンライン	6	19	0	
	2月20日	オンライン	6	31	4	
	3月20日	オンライン	8	23	1	
	受益対象者延べ人数					627
平田オリザさんや大学の研究室など外部とのコラボ、HUGやたんぼぼワークなど既存のワークのオンライン化、基礎スキルを学習・練習する研鑽テーマの継続など、今の時代だからこそ必要とされるファシリテーションを、積極的に追究できた。						

関西支部 定例会	4月11日	オンライン	7	69	2
	5月9日	オンライン(東北支部共催)	15	68	3
	6月13日	オンライン	9	82	1
	7月11日	オンライン	6	45	0
	8月8日	兵庫県西宮市 西宮市民会館及び、オンライン	12	36	0
	9月12日	オンライン	11	66	2
	10月10日	オンライン	9	91	20
	11月14日	兵庫県西宮市 西宮市民会館及び、オンライン	21	41	2
	12月12日	オンライン	6	54	0
	1月9日	オンライン	4	40	1
	2月13日	オンライン	8	33	0
	3月13日	オンライン	13	47	6
	受益対象者延べ人数				
2月支部イベントのリアル、3月ハイブリッドを経て、4月以降はオンライン主流となった。コロナ禍を好機と捉え、ファシリテーションについて探究学習する場を変態(トランスフォーメーション)させる方針のもと内容を検討。リアル開催にもチャレンジした。					
中国支部 定例会	4月18日	オンライン	4	16	0
	5月16日	オンライン	2	19	0
	6月20日	オンライン	3	17	0
	7月18日	オンライン	6	25	0
	8月23日	オンライン	3	21	0
	9月19日	オンライン	3	13	5
	10月17日	オンライン	3	12	1
	11月21日	オンライン	3	10	2
	12月20日	オンライン	5	9	1
	1月24日	オンライン	4	16	0
	2月21日	オンライン	5	23	5
	3月21日	オンライン	3	4	1
	受益対象者延べ人数				
「シフクのオンライン」を活動テーマとし、2020年を我々が変容するチャンスと捉え、全てオンライン実施で取り組んだ。シフクとは「私腹」「雌伏」「至福」など多様の意味を持つ。中国支部以外の参加者も増え多くの新しい発見や交流ができた。					
九州支部 定例会	4月4日	オンライン	5	50	0
	5月9日	オンライン	6	21	0
	6月6日	オンライン	6	22	0
	7月4日	オンライン	6	28	0
	8月1日	オンライン	5	20	0
	9月5日	オンライン	5	22	4
	10月3日	オンライン	11	24	1
	11月7日	オンライン	4	15	2
	12月5日	オンライン	7	12	1
	1月9日	オンライン	6	15	1
	2月6日	オンライン	7	16	2
	3月6日	オンライン	5	9	3
	受益対象者延べ人数				
九州支部オリジナルのオンライン定例会を作ることを大事にし、全12回中の10回を九州支部のメンバーで新規企画したテーマにて実施した。また、定例会参加者の募集に関しては、九州での普及を目的に、九州支部のメーリングリスト登録者を優先受付することも行った。					
全国	10月18日	オンライン ザ・ワールドカフェ25周年フェスティバル セントラル・ガーデン	約200		
	上記除く9月～3月末迄	オンライン ザ・ワールドカフェ25周年フェスティバル その他関連イベント(22回開催)	約400		
ファシリテーション・サミット	5月30日・31日	大阪ATCホール 会議室	延期		
サロンサポート	—		-	-	-
受益対象者延べ人数					0

2. 教育・普及事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	受益対象者数	
				会員	一般
公開セミナー	4月25日	高知県高知市		中止	
	4月26日	東京都		中止	
	5月16日	東京都		中止	
	6月12日	東京都		中止	
	6月20日	福岡県福岡市		中止	
	6月27日	兵庫県神戸市		中止	
	6月27日	愛知県豊田市		中止	

事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	受益対象者数		
				会員	一般	
公開セミナー	7月4日	沖縄県那覇市		中止		
	7月18日	宮城県仙台市		中止		
	7月18日	東京都目黒区 大橋会館	9	7	11	
	9月5日	愛知県名古屋		中止		
	9月19日	東京都目黒区 大橋会館	8	1	32	
	10月17日	大阪府大阪市 ドーンセンター	6	0	9	
	11月21日	東京都目黒区 大橋会館	11	2	27	
	11月28日	北海道札幌市 札幌市産業振興センター	5	0	7	
	12月5日	沖縄県那覇市 沖縄産業支援センター	4	1	8	
	12月5日	愛知県名古屋		中止		
	1月16日	東京都		中止		
	2月6日	広島県広島市		中止		
	2月13日	宮城県仙台市		中止		
	2月20日	福岡県福岡市		中止		
	2月27日	京都府京都市		中止		
	2月27日	北海道札幌市		中止		
	3月7日	愛知県名古屋		中止		
	3月20日	東京都		中止		
	受益対象者延べ人数					105
	アフターミーティング	10月17日	オンライン	6	1	3
2月20日		オンライン	4	1	2	
受益対象者延べ人数					7	

3. 支援・助言事業

事業内容	実施日時	実施場所・実施内容	従業者数	受益対象者数	
				会員	一般
ファシリテーションサポート委員会	6月26日他2回	北海道夕張郡 北海道長沼高校 授業	3	0	48
	8月21日	東京都目黒区/ハイブリッド(講師オンライン、参加者は参集の上タブレット 目黒区教育委員会事務局 教育指導課 教育支援課 小中学校の教員向けファシリテーション研修	2	0	32
	9月15日	オンライン 生活協同組合バルシステム千葉 ファシリテーション研修(プログラムデザイン)	3	0	21
	9月30日	北海道札幌市 国土交通省 北海道開発局 ファシリテーション研修	2	0	14
	9月30日 他7回	オンライン 高崎経済大学 地域政策学部 大学院 地域政策研究科 ファシリテーション授業	29	0	236
	10月2日	大阪府大阪市 税理士法人M&T ファシリテーションの基礎(体験版)	2	0	10
	10月13日	兵庫県西宮市(オンライン) ナガセ物流株式会社	2	0	7
	10月19日	ファシリテーション研修			
	11月17日	千葉県千葉市 社会福祉法人 千葉市社会福祉協議会 課題解決に役立てるファシリテーション	1	0	11
	1月19日	東京都中央区 東京都中央区地域包括支援センター 勝どきおとしより相談センター ファシリテーション研修	1	0	19
	2月19日	東京都練馬区 社会福祉法人練馬区社会福祉事業団 練馬介護人材育成・研修センター 学ぼう!ファシリテーションスキルの基礎	1	0	17
	2月24日	北海道札幌市 北海道庁 オンライン研修のファシリテーター	6	0	156
	災害復興委員会	4月22日 他5日	オンライン 丸森町災害情報共有会議	15	0
8月19日		オンライン 坂町地域支え合いセンターコア会議	3	0	16
6月18日 他1回		オンライン NPOカフェまんまる×長野市災害時支援ネットワーク交流会企画会議	4	2	10
10月27日 他5日		徳島県(徳島市、三好市、美波町)、群馬県前橋市、愛知県名古屋市、東京都港区、鹿児島県鹿児島市、埼玉県さいたま市 官民の多様な被災者支援主体間の連携促進のための中核(コーディネーター)人材育成研修会	8	0	888
11月6日 他3日		東京都港区 災害ボランティア連携・協働研修会~官民の多様な支援主体の連携・協働に向けて~	12	0	428
7月11日 他3日		オンライン 令和2年7月豪雨福岡県情報共有会議	26	0	253
12月9日		オンライン JVOAD会員向け勉強会	4	0	25
1月19日		オンライン 名古屋市社協 災害ボランティア担当者研修会	2	0	33
12月23日 12月29日		オンライン 会員との交流会	13	35	0
受益対象者延べ人数					2,441

4. 交流・親睦事業

事業内容	実施日時	実施場所・実施内容	従業者数	受益対象者数	
				会員	一般
地域イベント	11月28日	オンライン 中部支部イベント	18	39	18
	2月6日	オンライン 北海道支部イベント	10	31	3
受益対象者延べ人数					91
共催・後援等イベント	9月2日	オンライン 協力: 国立大学法人名古屋工業大学 コミュニティ工学ワークショップ	5	0	36
	2月23日～ 2月28日	オンライン 協力: 特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会 市民の参加と協働を進める多様なコーディネート実践研究集会	1	0	200
受益対象者延べ人数					236

5. その他の総合的な事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	受益対象者数	
				会員	一般
ニューズレター	年2回	東京都渋谷区 FAJ東京事務所、他全国		約1200	-
ウェブサイト	随時	東京都渋谷区 FAJ東京事務所、他全国		不特定多数	-
メーリングリスト SNS	随時	東京都渋谷区 FAJ東京事務所、他全国		約1200	-

6. 理事会

事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	受益対象者数	
				会員	一般
通常総会	5月31日	各所オンラインにて実施	267	-	-
理事会	4月12日	各所オンラインにて実施	13	-	-
	5月17日	各所オンラインにて実施	13	-	-
	6月28日	各所オンラインにて臨時理事会を実施	9	-	-
	7月4日	各所オンラインにて実施	15	-	-
	8月2日	各所オンラインにて実施	15	-	-
	8月30日	各所オンラインにて実施	14	-	-
	10月4日	東京都新宿区西新宿 貸会議室及び、各所オンラインにて実施	14	-	-
	11月8日	愛知県名古屋市中区 貸会議室及び、各所オンラインにて実施	14	-	-
	12月13日	東京都渋谷区 貸会議室及び、各所オンラインにて実施	12	-	-
	1月11日	各所オンラインにて実施	14	-	-
	1月30日	各所オンラインにて実施	12	-	-
	2月21日	各所オンラインにて実施	14	-	-
	3月21日	大阪市東淀川区 ホテル会議室及び、各所オンラインにて実施	12	-	-
拡大理事会	7月5日	各所オンラインにて実施	38	-	-
	1月31日	各所オンラインにて実施	43	-	-

II その他の事業

実施しなかった。

令和2年度「特定非営利活動に係る事業」活動計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

科 目	金額 (単位:円)		
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入金収入			
個人会費	12,190,000	12,190,000	
法人会費	0		
2 事業収入			
調査・研究事業収入	220,500	4,514,313	
教育・普及事業収入	2,226,000		
支援・助言事業収入	1,885,991		
交流・親睦事業収入	181,822		
3 寄付金収入			
個人寄付金	0	0	
法人寄付金	0		
4 助成金	0	0	
経常収入合計			16,704,313
II 経常支出の部			
1 事業費			
調査・研究事業費	1,678,320	6,309,146	
教育・普及事業費	2,430,967		
支援・助言事業費	1,855,609		
交流・親睦事業費	344,250		
2 管理費			
広報費	173,110	6,231,641	
交通宿泊費	641,508		
謝礼等	55,000		
会議費	235,717		
事務消耗品費	4,312		
通信運搬費	57,623		
諸会費	90,000		
雑費	479,249		
資料印刷費	627,847		
総会関係費用	451,219		
外部委託料	1,976,806		
支払手数料	299,408		
賃借料	963,924		
保険料	53,518		
租税公課	122,400		
経常支出合計			12,540,787
経常収支差額			4,163,526
III その他資金収入の部			
その他資金収入合計	51,864	51,864	51,864
IV その他資金支出の部			
その他資金支出合計	66,188	66,188	66,188
当期収支差額			4,149,202
前期繰越収支差額			37,154,394
次期繰越収支差額			41,303,596

令和2年度「特定非営利活動に係る事業」会計貸借対照表

令和3年3月31日現在

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

科目・摘要	金額（単位：円）		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	0		
普通預金 三菱東京UFJ銀行(経費)	1,234,701		
普通預金 三菱東京UFJ銀行(継続会費)	602,648		
普通預金 三菱東京UFJ銀行(新規会費)	433,242		
普通預金 三井住友銀行	8,460,336		
普通預金 三井住友銀行	11,111,352		
普通預金 三井住友銀行	9,317,080		
普通預金 三井住友銀行	10,007,447		
棚卸資産			
前渡金	139,732		
前払費用	0		
未収入金	1,067,941		
流動資産合計		42,374,479	
2 固定資産			
固定資産合計	0		
減価償却累計額	0		0
3 投資その他の資産			
差入保証金	29,580		
投資その他の資産合計		29,580	
資産合計			42,404,059
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	781,792		
前受金	280,000		
仮受金	0		
預り金	38,671		
流動負債合計		1,100,463	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			1,100,463
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		37,154,394	
当期正味財産増加額		4,149,202	
正味財産合計			41,303,596
負債及び正味財産合計			42,404,059

令和2年度「その他の事業」会計貸借対照表

令和3年3月31日現在

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

科目・摘要	金額（単位：円）		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	0		
普通預金	0		
流動資産合計		0	
2 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			0
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	0		
流動負債合計		0	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		0	
当期正味財産増加額		0	
正味財産合計			0
負債及び正味財産合計			0

令和2年度「その他の事業」活動計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

科 目	金額 (単位:円)		
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入会金収入			
個人会費	0		
法人会費	0	0	
2 事業収入			
物品の斡旋及び販売	0		
役務の提供	0	0	
3 寄付金収入			
個人寄付金	0		
法人寄付金	0	0	
経常収入合計			0
II 経常支出の部			
1 事業費			
物品の斡旋及び販売	0		
役務の提供	0	0	
2 管理費			
管理料等	0		
交通費	0		
事務消耗品	0		
通信費	0	0	
経常支出合計			0
経常収支差額			0
III その他資金収入の部			
その他資金収入合計			0
IV その他資金支出の部			
その他資金支出合計			0
当期収支差額			0
前期繰越収支差額			0
次期繰越収支差額			0

令和2年度会計財産目録

令和3年3月31日現在

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

科目・摘要	金額（単位:円）	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	0	
普通預金 三菱東京UFJ銀行西新宿支店	1,234,701	
普通預金 三菱東京UFJ銀行西新宿支店	602,648	
普通預金 三菱東京UFJ銀行西新宿支店	433,242	
普通預金 三井住友銀行渋谷支店	8,460,336	
普通預金 三井住友銀行渋谷支店	11,111,352	
普通預金 三井住友銀行渋谷支店	9,317,080	
普通預金 三井住友銀行渋谷支店	10,007,447	
棚卸資産	0	
前渡金 令和3年度会場代	139,732	
前払費用	0	
未収入金	1,067,941	
流動資産合計		42,374,479
2 固定資産		
固定資産	0	
固定資産合計	0	0
3 投資その他の資産		
差入保証金 レンタルスペース	29,580	
資産合計		29,580
		<u>42,404,059</u>
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	781,792	
前受金 令和3年度年会費	280,000	
預り金 講師謝礼源泉所得税	38,671	
流動負債合計		1,100,463
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		<u>1,100,463</u>
正味財産		<u>41,303,596</u>

令和2年度の事業報告書ならびに貸借対照表、活動計算書、財産目録を提出いたします。

令和3年4月18日

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会
会長 竹本 記子



監査報告書

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会
会長 竹本 記子 殿


特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、令和2年度（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）の特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会の業務および財産の状況について監査を実施いたしました。


業務については月次の理事会に出席したほか、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。また財産の状況については証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保障を得るための手続きを行いました。

監査の結果、法人の業務の執行に関しては法令及び定款に違反する重大な事実はなく、令和2年度の特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会の財産の状況は適正なものと認められます。

令和3年4月18日

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

監事 上井 靖 

監事 足田 恵子 

令和3年度事業計画書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

事業計画のポイント

「やってみたらええやん！」

2021年度のFAJは、「ファシリテーターズ・ターミナル」を目指して、実践を発信しよう。

- ・かつてない変化が起きている社会で、新たに求められているファシリテーションを探究しよう。
- ・一人ひとりの小さなチャレンジを積み重ね、ワクワク改革の主演になろう。

「いまできること、いっぱいあるで！」

FAJ は、2003 年に自律分散ネットワーク型の社会の到来を予測して設立し、ファシリテーションの普及と探究を進めてきました。継続的な全国での調査研究活動や、各種イベントでの実績を持つ、まさにファシリテーションのナショナルセンターと言える特定非営利活動法人(NPO)です。

昨年からの、新型コロナウイルスの感染拡大は世界中に衝撃を与えました。そして、新しい働き方やコミュニケーション手段からビジネスモデルをはじめ社会全体のあり方まで、かつてない変化をもたらしています。また、この感染症は世界中のあらゆるコミュニティに多大な影響を及ぼしています。

これまで「当たり前」だった環境は、コロナ禍の影響によって今後も形を変えていくことでしょう。だとすれば、すべての人が例外なく意識変革を迫られるこの時代に、私たち FAJ は何ができるのでしょうか。

これはまさに、FAJ 創設の頃のような、私たちがファシリテーションの新しいカタチを創造する「転換期」と言えるのではないのでしょうか。これまでの枠組みを手放し、この環境の中で再構築していきましょう。

そのためには、ファシリテーターが集い、それぞれの現場に向けて動き出すファシリテーターズ・ターミナルを目指す、ワクワクな改革が必要です。そこでは、ファシリテーター一人ひとりが主演(当事者)です。ファシリテーションで何が実現できるのかを語り、FAJ 活動の結果を残し、そこで得られた知見をそれぞれの現場や社会に役立てる活動へと広がりをつくるのが重要です。いま、会員同士がつながる手段は増えています。コミュニティを再考し、新たなつながりを生み出すことで可能性はさらに広がります。私たちの小さなチャレンジを積み重ねましょう。

ファシリテーションという軸でつながりあっている私たちだからこそ、この環境の中でも関係を作っていくことができます。

いま、コミュニティの中で新たに出会い、会うまでのワクワクを盛り上げていきましょう。

自由に動けるようになったら会いに行こう。すごいで！

■ かつてない変化が起きている社会で、新たに求められているファシリテーションを探究しよう。

全国イベント「ファシリテーション・サミット」などの取り組みを行い、ファシリテーションのこれからのカタチを FAJ 内外のファシリテーターとともに創造していきます。社会課題の解決に取り組む会員同士が学び合うことに加え、多様な協働パートナーとのコラボレーションにより、社会へのインパクトの相乗効果を高めます。その結果を対外的に発信することで、ファシリテーションの可能性を社会に対して伝えていきます。

■ 一人ひとりの小さなチャレンジを積み重ね、ワクワク改革の主演になろう。

一人ひとりの想いを起点にした活動が組織の中で動き始めるために、テーマ型サロンやプロジェクトなど既存の仕組みから、さらなるチャレンジが生まれやすい仕組みへと変えていきます。

以下、重点的に取り組む内容を事業別に記します(括弧内は担当を表します)。

1 ファシリテーション技術の確立や新しい技術の開発を目指す調査・研究事業

調査・研究事業では、FAJ内外の連携を深め、引き続き、課題解決に取り組む会員同士が学び合うことを目的に、実践力の相互研鑽の場をつくっていきます。

1) 実践力を高める相互研鑽の場づくりの推進(理事会、各支部運営委員会、プロジェクト)

- 今後も続くであろうコロナ禍においても対面の開催を模索する動きを継続し、新しい生活様式に対応した定例会・例会を実施します。
- また、オンライン定例会・例会の実施によって、支部・地域・団体等を越える新しいコラボレーションのきっかけを生み出し、ファシリテーションについて探究する場を拡げていきます。

2) ファシリテーションの本質を探究(理事会、イベント実行委員会)

- フォーラム、シンポジウム、ファーストミーティングに継ぐ新たな全国イベントとして、相互研鑽や本質の探究を深める場「ファシリテーション・サミット」を実施します。

2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業

教育・普及事業では、コロナ禍でも公開セミナーをできるだけ広く展開していきます。

1) 従来の公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)

- ファシリテーションの普及のため、状況を踏まえながら、ファシリテーション基礎講座(通常版・コロナ感染症対策版)を全国各地で開催します。
- コロナ感染症対策版については、運営ガイドラインを随時アップデートするなど、安心して受講できる取り組みを行い運営します。
- 今後も質の高いセミナーを継続的に開催できるよう、講師の増員、レベルアップを推進するとともに、セミナーコンテンツを継続的に改良します。

2) 公開セミナーの新たな展開の検討(公開セミナー委員会)

- ファシリテーション基礎講座(オンライン版)をリリースし、数回実施します。また集客状況や受講者からの評価も踏まえ、2022年度以降の開催について検討を行います。
- 当面コロナ禍が続くと予想されることから、ファシリテーション基礎講座(オンライン版)の開催を優先し、ファシリテーション実践講座(仮)については、運営体制を整備する等、コロナ収束後いつでもリリースができるように準備を進めます。

3 各種団体におけるファシリテーションの活用をサポートする支援・助言事業

社会課題の解決や新しい社会の創造に関わる様々な個人・団体の要請に対して、ファシリテーションを活用した支援を行います。

1) 社会からの多様な要請に対する支援の充実(ファシリテーションサポート委員会)

- 行政・各種団体・NPO・学校・企業等の多様な分野から寄せられる様々な相談や依頼に対し、抱えている課題やニーズを丁寧にヒアリングし、会員の協力のもと適切なコーディネートを通じてファシリテーションを活用した支援を行います。
- 社会的な課題解決という観点から、多様なニーズに対して積極的に関わっていけるような支援のあり方を模索していきます。そのためにFAJ全体のリソース(人、ノウハウ、コンテンツ)の活用を図ります。
- FAJ内への情報発信を引き続き行い、会員の理解を深めていきます。FAJ外への発信についても検討を行っていきます。

2) 災害復興、防災・減災に関するファシリテーションを通じた支援(災害復興委員会)

- 災害復興、防災・減災の分野において、ファシリテーションを活用した支援や人材の発掘・育成、学び合いをFAJ内外で行うとともに、支援の現場で実際に活動できる、実践力のある人材を育成します。
- 災害復興、防災・減災に関わる外部団体との情報交換、学び合いを行い、支援団体同士のネットワークづくりに着手します。
- FAJ内外に向けて、報告書や報告会、SNSなどで委員会の活動の効果・意義を広く伝えます。

4 ファシリテーターや関連団体間の親睦を図る交流・親睦事業

交流・親睦事業では、各種イベントや関連団体との交流を通して、FAJ内外のつながりをさらに深めます。

- 1) 地域イベントを開催(各支部運営委員会、地域イベント実行委員会)
 - 各支部におけるイベントの開催により、地域に根差した交流を深めます。さらに地域を跨いだイベントも開催することで、より開かれた交流を図り、ファシリテーションの普及と探究を一層促進します。
- 2) 国境や文化・言語を越えてつながる交流・親睦活動の強化(グローバルファシリテーション推進委員会)
 - FAJ会員を2021年10月のIAFストックホルム大会に派遣し、FAJのグローバル活動の幅を拡げ、強化します。併せてFAJ内外に知見を提供します。
 - グローバル社会に向けたファシリテーション活動の可能性をさらに拡げ、様々な実践に移していきます。
- 3) 他団体との連携強化(理事会、各支部運営委員会)
 - IAFをはじめとするファシリテーションの普及・研鑽に関わる団体と、協働パートナーとしての活動を進めます。
 - 各分野で活動している外部団体とファシリテーションを軸にコラボレーションを進めます。また、FAJ外部のファシリテーターとの連携を深めます。
 - 2025年に開催される「大阪・関西万博」の共創パートナーとして、多様な団体とのコラボレーションを進めます。

5 広報・コミュニケーション活動

2023年のFAJ創立20周年に向けて、新しいファシリテーションの可能性を意識して、FAJだからこそできる活動について情報発信します。

- 1) 広報優先順位の策定と発信の強化(理事会、広報委員会)
 - WEBコンテンツなどさらなる情報発信の拡大に向けたメディアの活用方法を検討します。
 - FAJ活動の魅力を、様々なメディアを使い内外に紹介し、会員である意義やFAJの価値を伝えます。
- 2) FAJ活動を内外に発信する広報活動の実施(広報委員会)
 - ファシリテーションを現場で実践し、社会課題に取り組む会員の活動をニューズレターで発信します。また、ニューズレターのデザインを刷新し、より効果的な発信ができる紙面を作成します。
 - 入会希望者やファシリテーションに関心のある人たちがファシリテーションの学びと実践を進めるために活用しやすいホームページの在り方や構成を検討し、発信します。
- 3) 会員間コミュニケーションの促進(広報委員会)
 - 情報発信にとどまらず、会員間で活発なコミュニケーションが促進されるホームページ・ニューズレター・SNS等のメディア活用について検討します。

6 ミッション及び組織運営に関わる活動

コロナ禍においてFAJが向き合う変化を踏まえつつ、ファシリテーターズ・ターミナルに向けた活動の歩みを止めることなく進めます。また、時代の転換期にふさわしいビジョンの策定を行います。さらに、法人として持続可能な組織づくりに取り組みます。

- 1) 組織のあり方の検討(理事会、各拠点、事務局)
 - 時代の大きな変化とファシリテーションの可能性の広がりをとらえ、新たなビジョンの策定を行います。
 - FAJ内外での協働と共創を促進するための仕組みの運用を開始し、効果について検証します。
- 2) 運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)
 - 安定的な組織運営のために、「やりたいこと」「やらなければならないこと」の違いを認識し、お互いに支え合いながら活動できるように、引き続き運営のやり方を検討・進化させていきます。
 - 委託可能な範囲の外注化を進めるとともに、その後の影響を見極めて対応します。
 - コロナ禍による環境の変化に伴う事業収益への影響に対し、新たな資金調達の方法を検討します。
 - 各拠点が活動しやすい環境にするため、拠点間及び理事会とのコミュニケーションを促進する組織コミュニケーションの場を継続します。
- 3) 拠点運営のサポートの充実(システム管理委員会)
 - G-suite運用整理と一部運用の外注化を検討し、組織体制の見直しを図ります。
 - 各拠点の活動の活性化を図るためのデジタル領域の運用支援を継続します。

4) 各種制度改正への対応(理事会、事務局)

- FAJとしての活動を維持・向上させるために、NPO法人に関連する各種の制度改正への対応を行います。

FAJビジョン 3.0

タテ型社会の常識からヨコ型社会の知恵へ (社会の視点・ファシリテーションの視点)

- ① 社会を構成する多くの人が、**対話と議論の手法や知恵**を自ら学び活用し、協働している。
- ② ファシリテーションが、あらゆる地域・分野の現場で、その存在を知られ、社会全体が、上意下達のタテ型社会の常識から、多様な考えやあり方を認め合いともに歩む**ヨコ型社会**を目指して変革をはじめている。

強い意志を持ったイノベーターのネットワークへ (ファシリテーターの視点・FAJの視点)

- ③ 社会や組織の課題を解決したいと願う挑戦的な**イノベーター**が、ファシリテーションによって現場で変革を起こしている。
- ④ 自覚と責任あるファシリテーターの**ネットワーク型組織**が、臨機応変にその実践とイノベーションを支えている。

ビジョンを実現するためのFAJの行動

- ① 社会を構成する多くの人が、対話と議論の手法や知恵を自ら学び活用し、協働している。
 - FAJは、個々の思いを機敏に具現化して、着実にイノベーションへとつなげる集合知を創生する。
 - FAJは、課題解決や変革を必要としている組織・コミュニティにファシリテーションのスキルとマインドを届ける。
- ② ファシリテーションが、あらゆる地域・分野の現場で、その存在を知られ、社会全体が、上意下達のタテ型社会の常識から、多様な考えやあり方を認め合い、ともに歩むヨコ型社会を目指して変革をはじめている。
 - FAJは、社会に深く根を張る上意下達型・ヒエラルキー型の思考様式と行動様式を打ち破り、多様な人々が自律的につながるネットワーク型組織の成功事例を、身をもって実現する。
 - ファシリテーションが生んだ成功事例を集め、その有用性や応用可能性、社会に与えるインパクトをアピールする。
- ③ 組織や社会の課題を解決したいと願う挑戦的なイノベーターが、ファシリテーションによって現場で変革を起こしている。
 - FAJに集まる野心的なファシリテーターが、国際的紛争や新しい分野など、それぞれの現場に向き合って耕し、その課題解決に挑戦し、成果を上げている。
 - FAJに集まるファシリテーターが、ヨコ型社会における新しいリーダーシップに挑戦している。
- ④ 自覚と責任あるファシリテーターのネットワーク型組織が、臨機応変にその実践とイノベーションを支えている。
 - FAJは、地域や特定分野での実践的な活動を支援する拠点やプロジェクトを臨機応変に立ち上げ、自覚と責任を持って変革を進める人々を輩出し、それらの場をつなぐネットワークのハブとなる。
 - FAJは、ファシリテーションに関する知識と経験を深めるため、研究と試行を重ね、地域や分野、世代を超えて実践者が刺激し合う相互研鑽の場となる。

ミッション

ファシリテーションの普及を通じて、ビジネス分野においては、生産性・モチベーション・リーダーシップ力を向上させ、社会的な分野では、市民活動・地域経営・国際交流の質を高め、教育の分野では、多面的な視点を持つ人材を育成していくことをめざしています。

ビギナーからプロフェッショナルまで、ビジネス・まちづくり・NPO・教育・環境・医療・福祉など、多彩な分野で活躍するファシリテーターが集まり、多様な人々が協働しあう自律分散型社会の発展をめざして、幅広い活動を展開していきます。

以下、計画の詳細について記載します。

【A】特定非営利活動にかか事業

1. 調査・研究事業 (拠点からのコメントも掲載)

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
北海道支部 定例会	「学び、実践し、成長しつづける場」創りにチャレンジし、ファシリテーションを北海道に広げていく。全国FAJや外部に発信することを企画して、学びとつながりを深めていきたい。			
	通年 (11回)	北海道	33名 (3名×11回)	会員330名、一般33名 (会員30名＋一般3名)×11回
東北支部 定例会	オンライン、ハイブリッド、リアル開催も試みながらこれまでの宮城中心から東北エリアにも普及活動の可能性をひろげる。 また東日本大震災から10年、災害の現場におけるファシリテーションの活かし方等を外部とのつながりを持ちながら探っていく。			
	通年 (12回)	宮城	60名 (5名×12回)	会員180名、一般60名 (会員15＋一般5)×12回
東京支部 定例会	前年度同様、調査定例会と研究定例会の区分けにより、ファシリテーションの先端調査と研究を実施する。また、定例会を多様な学びの場とするため、FAJ会員に留まらない定例会企画者の募集にチャレンジする。			
	通年 (11回)	東京・神奈川・千葉・埼玉・群馬等	220名 (20名×11回)	会員830名、一般210名 (会員80名＋一般10名)×6回 (会員70名＋一般30名)×5回
中部支部 定例会	オンライン・オフラインにとらわれず、変わらない「ファシリテーションの本質」を大切にしていく。 FAJのミッション達成を目指し、中部支部としては、自他の力を信じるファシリテーターが人と人をつなぎ、人を動かし、社会、環境を変えていること及びそのファシリテーターの協働創造コミュニティとなることを目指す。			
	通年 (12回)	愛知	66名 (6名×12回)	会員480名、一般84名 (会員40名＋一般7名)×12回
関西支部 定例会	前年度に引き続き「変態させる」をテーマに、ファシリテーションを探究する場を会員とともに作りあげる。今年度は、SDGsなど大きなテーマへの取り組みや、外部団体とのコラボ、リアル・オンラインそれぞれの特質を活かした場づくりにチャレンジする。			
	通年 (11回)	大阪・京都・兵庫	132名 (12名×11回)	会員550名、一般88名 (会員50名＋一般8名)×11回
中国支部 定例会	「シフクのオンライン」で学んだスキルとネットワークを活かし、中国支部内のつながりづくりや他支部間交流を積極的に行う。またNPOとして教育や災害など社会課題におけるファシリテーションの可能性について探る場を提供していく。			
	通年 (11回)	広島	33名 (3名×11回)	会員132名、一般33名 (会員12名＋一般3名)×11回

九州支部 定例会	九州全体の幅広い対象と「連携」することができる場、会員個人の悩みに寄り添える「相談」の場、運営メンバーが「楽しさ」を実感できる場を実現する。 定例会では、前年度同様、九州支部のオリジナルな定例会を作ることを大事にする。			
	通年 (11回)	福岡	33名 (3名×11回)	会員330名、一般 66名 (会員30名＋一般 6名)×11回
サロンサポート	—	地域型12カ所 テーマ型5カ所	—	—

2. 教育・普及事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
公開セミナー	通年 (28クラス)	東京・大阪・愛知・広島・福岡等	140名 (5名×28クラス)	会員112名、一般336名 (会員4名＋一般12名)×28クラス
	通年 (数クラス)	オンライン	3名/1クラスあたり	1クラスあたり 会員8名、一般12名

3. 支援・助言事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
ファシリテーション サポート委員会	通年 (50回)	全国	100名 (2名×50回)	一般1,500名 (一般30名×50回)
災害復興委員会	通年 (30回)	全国	60名 (2名×30回)	一般900名 (30名×30回)

4. 交流・親睦事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
グローバル ファシリテーション 推進委員会	通年	全世界	65名 (5名×13回)	会員240名、一般 (IAF他) 60名 会員30名×6回及び (会員10名＋一般10名)×6回
地域イベント	未定	愛知	—	—
	未定	福岡	—	—
	未定	東京	—	—
	未定	札幌	—	—
	未定	宮城	—	—
	未定	大阪	—	—
	未定	広島	—	—

5. その他の総合的な事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
広報委員会				
ニューズレター	3回	全国	24名 (8名×3回)	会員1,250名
ウェブサイト	通年	全国	20名	不特定多数
メールリングリスト等	通年	全国	20名	会員1,400名

【B】その他の事業

実施しません。

令和3年度「特定非営利活動に係る事業」活動予算書

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

以下の予算は2021年2月に策定したものです。コロナ禍の状況でファンリテーションの必要性がより高まっていることを踏まえ、私たちが目指す姿の実現に向けた歩みを止めないことを念頭に策定しました。コロナの状況については各拠点の地域性や事業内容によって異なっていますが、拠点の想定に基づく予算となっています。

2021年4月1日から2022年3月31日まで

単位＝円

科目	2021年度予算 予算内訳												
	事務局	北海道	東北	東京	中部	関西	中国	九州	公開セミナー	サミット	ファシサポ	災害復興	
I 収入の部													
1 会費収入													
個人会費収入	12,500,000	12,500,000											
法人会費収入	200,000	200,000											
	12,700,000	12,700,000											
2 事業収入													
調査・研究事業収入	2,148,580		82,500	360,000	24,000	75,000	36,000	12,000		1,559,080			
教育・普及事業収入	8,922,040								8,922,040				
支援・助言事業収入	4,370,000										2,720,000	1,650,000	
交流・親睦事業収入	2,068,500	160,000	228,500	500,000	140,000	750,000	90,000	200,000					
	17,509,120	160,000	311,000	860,000	164,000	825,000	126,000	212,000	8,922,040	1,559,080	2,720,000	1,650,000	
3 寄付金収入													
個人寄付金													
法人寄付金													
4 助成金等収入													
民間助成金													
収入合計	30,209,120	12,700,000	160,000	311,000	860,000	164,000	825,000	126,000	212,000	8,922,040	1,559,080	2,720,000	1,650,000
II 支出の部													
1 事業費													
調査・研究事業支出													
会場使用料	3,661,800	189,800	152,000	1,400,000	345,000	260,000	108,000	235,000		782,000	190,000		
事務消耗品費	649,000	20,000	30,000	190,000	40,000	200,000	10,000	130,000		10,000	19,000		
交通宿泊費	2,910,000	480,000	240,000	720,000	100,000	300,000	200,000	85,000		80,000	705,000		
謝礼等	1,828,000	56,000	112,000	700,000	200,000	450,000	60,000	50,000		200,000			
印刷費	271,000	15,000	24,000	145,000	20,000	25,000	10,000	12,000		20,000			
会議費	309,000	15,000	44,000	50,000	20,000	100,000	30,000	30,000		20,000			
雑費	406,000	3,000	20,000	60,000	40,000	50,000	50,000	12,000		171,000			
外部委託料	169,195			60,000	10,000	3,000				96,195			
研究開発費	30,000											30,000	
	10,233,995	778,800	622,000	3,325,000	775,000	1,388,000	468,000	554,000		1,379,195	914,000	30,000	
教育・普及事業支出													
会場使用料	1,900,000								公開セミナー	1,900,000			
事務消耗品費	210,000									210,000			
交通宿泊費	2,700,000									2,700,000			
謝礼等	4,219,110									4,219,110			
印刷費	454,000									454,000			
会議費	213,000									213,000			
雑費	110,000									110,000			
	9,806,110								9,806,110				
支援・助言事業支出													
会場使用料	50,000											50,000	
事務消耗品費	32,000											22,000	
交通宿泊費	2,240,000											680,000	
謝礼等	1,965,000											980,000	
印刷費	60,000											60,000	
会議費	3,000											3,000	
雑費	184,000											2,000	
	4,534,000											1,684,000	
交流・親睦事業支出													
会場使用料	1,095,000	100,000	65,000	230,000	200,000	350,000	50,000	100,000					
事務消耗品費	125,000	10,000	10,000	30,000	5,000	35,000	10,000	25,000					
交通宿泊費	960,000	160,000	50,000	50,000		100,000	50,000	100,000	450,000				
謝礼等	673,000	56,000	56,000	80,000	115,000	60,000	50,000	50,000	200,000				
印刷費	164,000	14,000	40,000	30,000	20,000	30,000	20,000	10,000					
会議費	103,000	5,000	35,000	24,000	10,000	20,000	5,000	4,000					
雑費	459,770	15,000	20,000	50,000	9,000	100,000	15,000	4,000	246,770				
外部委託料	110,275	55,000		30,000	15,275		10,000						
	3,690,045	415,000	276,000	500,000	339,275	750,000	220,000	293,000	896,770				
事業予備費	2,000,000	2,000,000											
事業費計	30,264,150	2,000,000	1,193,800	898,000	3,825,000	1,114,275	2,138,000	688,000	847,000	10,702,880	1,379,195	2,598,000	2,880,000
2 管理費													
広報費	420,000	200,000	160,000	60,000	詳細								
交通宿泊費	3,270,000	2,350,000	300,000	620,000	パンフ改訂・印刷20万(事務)、プレスリリース6万(広報)WEBサイト年間維持費16万(システム)								
謝礼等					理事会25万×7回、拡大理事会40万、(事務局)リアルMTG10万×2回、(システム)リアルMTG15万×2回								
会議費	650,000	600,000	30,000	20,000	一交通費続キー(広報)リアルMTG30万、取材交通費32万								
事務消耗品費	50,000	50,000			(理事会)通常5万×6、拡大10万 役員合宿20万、(広報)3万、(システム)2万								
通信運搬費	301,000	301,000			名刺代4万、その他備品消耗品								
諸会費	90,000	90,000			郵便6万、電話2.6万、Zoom使用料1.5万、oVice20万								
雑費	490,000	10,000	10,000	470,000	JVOAD5万、シーズ3万、日本NPOセンター1万								
資料印刷費	1,075,000	75,000		1,000,000	Stock管理費用2万、NL発送費 47万 他								
総会関係費用	700,000	700,000			封筒7.5万 NL印刷費用100万								
外部委託料	2,661,500	1,901,500	360,000	400,000	会場費25万、送料(発送作業含)25万、資料等印刷20万								
支払手数料	500,000	500,000			(システム)web保守、(広報)NL編集外部委託								
賃借料	980,000	980,000			振込手数料25万、EB使用料5万(2.5万×2)、会費払込手数料20万								
租税公課等	330,000	330,000			家賃66万(5.5万×12か月)、倉庫(中部、関西)28.6万、セミナー倉庫代 3万他								
保険料等	55,000	55,000			法人税均等割7万、消費税26万								
					損害保険								
管理費計	11,572,500	8,142,500	860,000	2,570,000									
支出合計	41,836,650												
当期収支差額	-11,627,530												
前期繰越収支差額	39,773,771												
次期繰越収支差額	28,146,241												

<第3号議案> 令和3年度役員の選任について

(普通決議:総会に出席した正会員の過半数による議決)

1. 令和3年度の理事候補者 (敬称略、再任、新任で50音順)

再任 小栗 由香

再任 小池 秀裕

再任 斉藤 俊哉

再任 竹本 記子

再任 津田 壮彦

再任 徳山 可之

再任 林加代子

再任 本宮 大輔

新任 水江 泰資

新任 山根 弘和

2. 令和3年度の監事候補者 (敬称略、再任、新任で50音順)

再任 上井 靖

再任 疋田 恵子

